

2011年度 第1四半期 決算説明会
主な質疑応答

Q1:先日の新聞報道で今年度も100億円超の構造改革費用が発生すると書かれていましたが、内容が事実であるかどうか教えてください。

A1:構造改革は昨年度までで完了しており、構造改革費用は発生しません。今後も定常的に市場対応・生産性向上のための施策を行っていくため、毎年数10億円程度の費用は発生します。これは通常の経費の中で吸収していきます。今年は特に光学デバイス事業で、携帯電話からスマートフォンへという市場トレンドに見合った事業体制にするために約40億円をかけて対応しています。しかし、これらは昨年まで実施していた構造改革費用とは異なる内容となります。

Q2:第1四半期の営業利益は、想定と比べると少し弱かったと思いますが、どの部分の影響が大きかったでしょうか。

A2:銀価格高騰は想定以上に大きかったといえます。

Q3:年間1,600億円の営業利益予想の対前年 81億円(構造改革費用前営業利益1,681億円)の主な増減要因を教えてください。

A3:為替影響が40億円、銀・アルミの原材料高影響が240億円、国内需要減少など震災影響が250億円、合計で530億円のインパクトがあります。このうち、原材料は製品価格の値上げにより、240億円 130億円、震災影響は挽回施策を展開しており、250億円 60億円と影響を縮小していきます。これに構造改革効果+65億円、販売増・コストダウン他 +84億円が加わり81億円となります。

Q4:国内のドキュメントボリュームの状況を教えてください。

A4:4～6月トータルでは震災影響もあり前年比マイナスでしたが、6月は前年並みに回復しました。7月以降も前年並み以上が期待できると思います。

Q5:5円増配しても、配当性向は25%に届かない水準ですが、自社株買いの可能性はありますか。

A5:現在の状況下では、自社株買いは考えていませんが、今後の状況によってまた改めて検討したいと思います。

以上